

1 総合的な学習の時間における深い学びをする子供とは

総合的な学習の時間における深い学びをする子供とは、探究的な見方・考え方を働かせながら、自らの課題に対し各教科等における見方・考え方や生活経験を総合的に働かせて試行錯誤し、自分なりの解決策を考え自己の生き方を形成していく子供である。

2 深い学びをする子供を育てるには

(1) 課題意識をもち、探究的な学習を充実させる

まず、日常生活や社会に目を向け、子供が自ら課題を設定する。その課題解決に向けて情報を収集し、それらの整理・分析し、まとめ・表現する活動という探究の過程を経由することにより、自らの考えや課題が新たに更新していく。そして、その探究の過程を繰り返し、問い続けていく。そのような学習に耐え得る教材を開発し、主体的に探究する場を保障することで、子供たちは真剣に考え、自分なりの解決策を考えて取り組むことができる。それによって、問題解決に必要な知識・技能や問題解決による効力感を得ることができ、それが、自己の生き方につながっていく。

(2) 協働的な学びの場を設定する

子供は、自らの課題や追究する取り組み方に新たな視点が導き出されたとき、自分の考えを見直し、不十分さを補おうとする。そこでは、考えや取組がどのような経験を基にして考えたのか根拠を明らかにして、友達の考えと比較・検討しながら協働的に学ぶ場を設定する。そして、友達の対象に対する捉え方や価値を基に自分の考えを見直し、考えてみたいことをはっきりさせ、自信をもってさらに追究できるようにする。

(3) 自分の変容を自覚できるように、追究を振り返る場を設ける【重点】

子供は、対象のもつ様々な価値に気付きながら追究を深めていくが、その過程において、友達と関わり友達の取組に触れることで、新しい視点に出会い、対象への関わりを変容させていく。課題解決の過程で収集した情報やそれらを基に思考したこと、判断したこと等を表現し、蓄積していく。それにより、自分の追究を振り返り、自分の変容や形成された自分の生き方に気付き、学ぶ喜びを味わえるようにする。

特別活動

屋鋪 善祐

1 特別活動における深い学びをする子供とは

特別活動における深い学びをする子供とは、様々な集団活動において、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせながら、自主的、実践的に取り組んでいく中で、集団や自分の課題解決を図っていく子供である。

2 深い学びをする子供を育てるには

(1) 子供が問いをつくるには

子供は、所属する集団や自分の生活上の課題を見だし、自分事として捉えたとき、それまでの生活経験をもとに、集団や自分の生活をよりよくしていこうと考え始める。そこで、集団や社会の形成者という立場で、自分や学級、学校、地域、社会の課題を共通理解する場を設ける。そして、集団の一員としての自覚を高めた上で、課題解決に向けた自分の考えをもつ場を設ける。

(2) 子供が自ら問いを解決していくには

子供は、自分の考えや取組とは違い、所属する集団のことを本気になって考えた提案と出合った時、今までの自分の考えや取組を見直したり、新たな案のよさや問題点を浮き彫りにしたりしようとする。そこで、話し合いでは次のことに重点を置く。

- ・一人一人の立場を位置付けた上で、考えの異同や論点を明確にし、考えの背景を比較・検討する。
- ・互いの考えのよさや可能性に気付くことができるように、集団と個の関係、集団活動の価値を明確にする。
- ・合意形成を図ったり、一人一人が意思決定をしたりした経験を生かす追体験の場を設ける。
- ・新たな活動目標をもつことができるように、学級として選んだ価値や活動に向けた前向きな視点を可視化する。

(3) 子供が自ら次の活動に歩み出すには

子供は、学級の実態や活動の目標を意識することで、折衷案・改善案を考えて話し合いに折り合いをつけ、自主的、実践的に取り組むことができるようにしていく。そこで、学級の目指すべき姿を確認した上で、活動内容を自己選択し、実践する場を設ける。また、活動後の振り返りでは、学級での高まりや問題点を共有する場を設け、今後目指したい集団や自分の姿を描いていけるようにする。